

教育優秀賞 / プラクティス優秀賞

2024 年度前期「教育優秀賞」「プラクティス優秀賞」受賞者の決定について

2024 年度前期「教育優秀賞」「プラクティス優秀賞」受賞科目、受賞者が下記のとおり決定しました。

受賞科目と受賞者

		受賞科目	受賞者
教育優秀賞	履修者 30 名未満	国際標準化戦略論	高木 真人 非常勤講師 相羽 繁生 非常勤講師
	履修者 30 名以上	教養基礎セミナー 1	江口 建 教授 池田 琴恵 教授
プラクティス優秀賞		創造性開発実習 1 「電気自動車」	藤崎 敬介 特任教授 前田 淳也 指導員



(左から高木非常勤講師、保立学長、相羽非常勤講師)



(左から藤崎特任教授、池田教授、江口教授、保立学長)



(藤原教授、前田指導員、保立学長)

教育優秀賞受賞者の感想

「教育優秀賞」(履修者数 30 名未満)

授業科目:国際標準化戦略論

教育優秀賞をいただき、心より光栄に思います。

本講義は、国際標準化の重要性や戦略を理解し、それをビジネスツールとして活用することを目的としています。グループ討議や発表を含む、土曜日 3 日間の集中講義形式で実施したため、学生諸氏にとっては大きな負担であったことと思います。

本講義は元々、実務経験を有する社会人学生を対象に、他大学の専門職大学院で行った講義を基に構成しています。その専門職大学院での講義には、ISO(国際標準化機構)の高等教育賞で最終 6 ヶ国に選出された実績があります。本学の講義では、要点を押さえつつ、初学者にも分かりやすい内容を心掛けました。学生諸氏が意欲的に取り組んでくださり、高い達成感と満足感を持っていただけたことを、大変嬉しく思います。

今後も、講義の更なる改善に努めてまいります。最後に、講義に積極的に取り組んでくださった学生諸氏、そして講義実施にあたりご支援をいただいた大学関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

(公社)日本工学会 理事
(一社)研究・イノベーション学会 副会長
高木 真人

この度、『教育優秀賞』という栄えある賞を頂戴致しまして心より御礼申し上げます。ありがとうございます。私は自分がこれまでやってきたこと、つまり「日本ばね工業会の経営者がどのような思いで、世界のばねメーカーと伍して、ISO 規格づくりを進めてきたか」をお話させて頂きました。その中で「何としても日本のばね業会を守らなければならない。そのためには、規格作りで海外には負けられない。」という思いが皆さんに伝わってほしいとの思いで講義をさせて頂いておりました。少しでも伝わっていたとするならば嬉しく思います。

株式会社東郷製作所 代表取締役社長
相羽 繁生

「教育優秀賞」(履修者数 30 名以上)

授業科目:教養基礎セミナー1

名誉に与り、光栄に存じます。本科目は、新入生が最初に受講する初年次教育科目のうちの一つです。新入生が大学生活を送るうえで早期に知っておくべきこと(大学での学び方や大学生としての志、生活習慣の整え方、自己管理の仕方、人間関係の作法など)を集中的に学べるように授業設計をしています。今年から池田琴恵先生という頼もしい同僚を得て、教養科目の最適化について有益な意見交換をすることが叶いました。教育とは、いつでも暗中模索ですが、工学系の単科大学で何故にこの科目が開講されているのか、その理由と教員の意図を理解して最後まで真面目に授業に臨んでくれた学生たちの今後の成長に大いなる期待を抱きつつ、私自身、一層、進取果敢に教育に励む所存です。

江口 建 教授

この度は「教養基礎セミナー1」にて栄誉ある賞を頂きましてありがとうございます。今年度から本学に着任し、江口先生とともに授業を担当させていただきました。この賞は、江口先生がこれまで「学生の皆さんにとって何が必要なのか」を問い続け、学生さんの成長につながる自覚的で体験的な授業の展開を構築されてきた結果と存じます。これまで経験してきた学び方とは異なる大学での学修や論述のスキル、大学生という立場であっても大人としての振る舞いを求められる人・社会との関係構築のスキルは、知識だけでなく実際に行動してみなければ身につけられません。今後とも江口先生と学生のよりよい学生生活のスタートを支え、教養ある人生に資するよう、努めてまいります。

池田 琴恵 教授

プラクティス優秀賞受賞者の感想

授業科目：創造性開発実習1「電気自動車」

この度は「創造性開発実習1：電気自動車」にて栄えある賞：プラクティス優秀賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。本実習は、市販の車椅子を学生自らのアイデアで電動化させることを行うものであり、試作、走行検証だけでなく、その企画、運営、予算管理、日程、体制づくりを学生自ら行うことになっています。このため、無段変速機(CVT)といったアイデアも出されることもありますが、その実現の困難性を自ら悟って適宜方向修正などを行い、現在、電動走行の実現に向かっていきます。このように理想と現実のハザマで得られた経験は、学生各自の大きな財産になるものと思っています。引き続きご配慮の程よろしくお願い申し上げます。

藤崎 敬介 特任教授